

ストップ地球温暖化！  
 藤本工務店は地球環境を  
 守る活動『チャレンジ25』に  
 協賛登録しています。

# わいわいくらぶ



社長のひとりごと…

『わいわいくらぶ』は、当社の大切なお客様のために、私たち藤本工務店のスタッフが手づくりでお送りしているコミュニティー誌です。

## 『無垢（本物）の床板が出来る道のり』

『そろそろ現場に桧の床板いるで！』との息子の声に、産地に買い付けに行くことになる。当社は自然素材で家づくりをしているが、お客様に少しでもお値打ちに提供する為に産地から直接仕入れしている。中間業者が一切入らないのでかなりお値打ちではあるが、その分、自分で産地まで出向かなければならない。行き先は岐阜県山県市谷合。以前にも書いた事があるが、この地区では製材所の数が80ヶ所もあったそうだ。しかし、林業の衰退で今ではその数も半分以下。今回はその中の製材所において、無垢の床板が出来るまでの道のりを紹介したいと思います。

まず山で30年～40年の間、大切に育てられた原木は、切り出されて木材市場に集められる。セリにより値段が付くのだが、節の多い木は値が安く、節が少なく年輪の細かい木は高値が付く。ここで良い木をいかに安く仕入れるかで、業者の利益が大きく左右されるのだ。セリ落とされた原木は製材所に運ばれ一定の大きさで（幅18センチ厚み2cmくらい）製材されていく。ところが、製材所の中は大きな音で会話もままならない環境である。その中で製材された板は一枚一枚、一定の間隔を開け手作業で何百枚も積み上げられる。その後、屋外で三カ月ほど自然乾燥される。その間にヒビ割れ等で使えない板も出てくる。



こうして時間をかけて乾燥された板は、節がある板と無い板に選別されるが、節が無い板は数が少なく高値が付く。しかし、あまりに高価な為一般に多く使われることはない。よく使われるのは節がある板だが、同じ節でも「生き節」と「抜け節（穴の空いた節）」があり、「抜け節」では商品にならない為、一個一個「抜け節」を綺麗な節に埋め替えていくという気の遠くなる様な作業工程がある。作業所を覗くと、若いお兄ちゃんが黙々と作業をしていた。その様子を見ていると、もはや「御苦労さまです」と言う言葉しか出てこない…。こうして綺麗に埋め木された板は加工場に運ばれ、綺麗な形に整えられてようやく製品となるのである。

木の王様と言われる桧の床板（桧に限らないが）は、長い長い年月と手間をかけて誕生する事がお解かり頂けたのではないだろうか。

木は人の心を癒やす効果があると言われるが、大地の恵みと多くの人々の汗の結晶である事を思えば、その効果は当然の事かもしれない。無垢の床板は、私には神様からの贈り物としか思えず、本物の木材にこだわる理由がここにある。扱う私達も丁寧に扱うが、住まわれて居る皆様方も大切にお手入れして頂きたいと願うばかりである。

ではまた、来月もお会いしましょう。  
 今回も最後まで読んでいただき……、

あっぱれ  
 ございました!!

